

## 呼吸器腫瘍内科 常勤スタッフ募集

国立病院機構大阪刀根山医療センターは、創立 102 周年にあたる 2019 年 4 月に 100 年近く呼称してきた刀根山病院から名称を変更しました。北摂(大阪府北部)エリアの呼吸器内科としては最大の規模を誇ります。

現在、呼吸器腫瘍内科では常勤医師およびレジデントを募集しております。

- ・内科研修を終えて、呼吸器専門研修を引き続き希望される先生
  - ・呼吸器専門研修を終えて、特に呼吸器腫瘍の経験を積みたい先生
  - ・呼吸器腫瘍の症例経験があり、症例豊富な当院で活躍をしていただける先生
- ご興味のある先生は文末の連絡先までご連絡ください。

## 呼吸器腫瘍内科の診療

呼吸器腫瘍内科は北摂(大阪府北部)一円から患者が来院し、新規の肺癌患者が年間約 250-300 例、新規の化学療法の導入も約 110-130 例 と大阪府内でも有数の患者数であり、十分な症例を経験することができます(<https://toneyama.hosp.go.jp/introduction/central/pdf/cancer-entry201912.pdf>)。また、スタッフは呼吸器内科とは分けていますので、入院受け持ち患者のほとんどは呼吸器腫瘍の患者となります(希望があれば、一般呼吸器の診療もオーバーラップできます)。また、呼吸器の検査では(呼吸器内科系全体で)、気管支鏡が年間約 500 件(EBUS-GS EBUS-TBNA も多数)、CT ガイド下生検約 10 件、局麻下胸腔鏡約 10 件などで、十分な経験を積むことができます。

近年新たな分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤が次々と登場し、治療のスキームが大きく変わってきています。専門施設に在籍していると化学療法の最先端の情報を得て、実際の診療にあたることができます。また、がん専門病院とは異なり、多くの患者さんに対して終末期に至るまで継続して対応しますので、一貫した肺癌診療を経験することができます。

## 呼吸器腫瘍内科の臨床研究

臨床研究に関しては、開発治験や臨床試験を多数行っています。西日本がん研究グループ(WJOG) や国立病院機構の肺がんグループなどに参加して、癌化学療法の臨床試験を幅広く行っています。

また、当科は大阪大学呼吸器・免疫内科学教室の関連施設ですが、大阪大学は国内でも有数の免疫学分野の研究グループでもあり、近年はがん患者特に免疫治療に関連したトランスレーショナルリサーチに力を入れています。当院は大阪大学に地理的に近く、当院の患者の検体を用いて様々な共同研究を行っています。最近では、T リンパ球に抗 PD-1 抗体が結合している状態をモニターする方法を開発し、抗 PD-1 抗体が投与後も 3-6 ヶ月間はリンパ球に結合した状態を維持することを確認いたしました([https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2018/20181004\\_1](https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2018/20181004_1))。これにより、抗 PD-1 抗体の有害事象が最終投与数か月間は出現する

可能性があることを証明しました。他にも、治療前の腸内細菌叢が免疫チェックポイント阻害剤の治療効果に影響を及ぼしていることを報告しています。また、大阪大学と新規の共同研究を開始しています。

論文作成や学会発表を奨励しており、経験の少ない先生には十分なサポートを行います。多施設共同研究、院内の観察研究、トランスレーショナルリサーチ、症例報告まで幅広い業績があります。当科の過去の論文業績は、ホームページ内からリンクがあります (<https://toyama.hosp.go.jp/patient/department/tumor/index.html>)。

### 一般呼吸器内科の研修

内科専門医研修を終えたあと引き続き呼吸器専門研修を希望される先生の場合、診療実績として腫瘍分野以外の症例経験が必要になります。呼吸器内科への院内ローテートやオーバーラップが可能で、個々の先生の状態により個別に対応いたします。

呼吸器内科も、閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、さらに抗酸菌感染症など症例数は非常に豊富です。結核隔離病棟は廃止しましたが、北摂一円から疑い患者の紹介があり、結核の診断、入院での治療導入、外来治療を行っています。

### 専門医資格の取得

当院での勤務により、呼吸器学会、呼吸器内視鏡学会、緩和医療学会認定医、がん治療認定医機構の各専門医・指導医の取得が可能です。なお、薬物療法専門医については連携施設ですが、がん腫は呼吸器腫瘍のみとなります。詳細につきましては、お問い合わせください。

### 当院での待遇

国立病院機構規定の待遇となります。卒後6、7年目の先生は常勤医の定員充足状況によっては、レジデント待遇となる可能性があります。

なお、当直は二人当直制で月3回程度、救急病院ではないため院内対応と通院患者の対応が中心です。原則として当直医が対応するため、時間外の主治医対応は限定的です。

### 当院での呼吸器研修後の進路

当院での呼吸器研修の終了後については、条件が整えば引き続き当院で勤務を継続することが可能です。また、基礎・臨床研究を希望される場合には、大阪大学呼吸器・免疫内科学に御紹介いたします。他の病院の呼吸器内科で勤務することを希望される場合は、個別に相談させていただきます。

最後にホームページですからあまり踏み込んだ内容にはできませんので、もし興味をお持ち

ち頂けた先生はお気軽に御連絡ください。みなさんと一緒に仕事ができることを楽しみにお待ちしております。

統括診療部長                    森 雅秀

呼吸器腫瘍内科部長        内田 純二

(お問い合わせは [mori.masahide.fr@mail.hosp.go.jp](mailto:mori.masahide.fr@mail.hosp.go.jp) uchida.junji.rh@mail.hosp.go.jp まで)